

福島復興支援事業(ブルー・スカイ・プロジェクト)

2012年1月
在ニューヨーク日本国総領事館

2011年12月1日～2日、東日本大震災からの福島復興を願う事業が米国・ニューヨークにおいて開催されました。福島県の商工会議所青年部とニューヨーク在住の日本人から構成されるブルー・スカイ・プロジェクト(Blue Sky Project)実行委員会が企画し、当館も協力しました。

1. 「ブルー・スカイ・プロジェクト実行委員会」とは

東日本大震災により大きな被害を受け、今も福島第一原子力発電所事故の風評被害等に苦しむ福島県の復旧・復興に向けたPRを行うために、福島県商工会議所青年部がニューヨーク在住の日本人と協力し、ブルー・スカイ・プロジェクト(Blue Sky Project)実行委員会を立ち上げました。

2. 座談会(12月1日)

当館において、「復興への道しるべ」と題し、地震、津波、原発事故、風評被害をテーマに、それぞれ特に影響の大きかった地域出身の実行委員会メンバーが現状を報告し、意見交換を行いました。

委員会メンバーからは、福島県産品は、食品だけでなくネジに至るまで、国内外で受け入れられない時期があったなどの風評被害の深刻さや、最近の除染作業の難しさなどについて説明がなされました。

当地出席者(福島県人会、福島県出身で当地ゆかりの野口英世博士の墓を守る会や福島県内に工場を有する企業)からは、報道を通じてのみしか福島の現状を知ることができなかったが、今回、現地の人々の生の声を聞いて、日々直面している困難がわかったとの声がありました。

また、風評被害に対しては、米国のFDAが行っている食品の安全を証明するマークを日本でも考案すべきという提案が当地出席者からなされました。



【座談会模様】

3. レセプション(12月1日)

総領事・大使公邸にて約170名が出席し、福島県産民芸・工芸品の展示・説明、

震災に関する写真の展示や福島県産日本酒を提供するレセプションを開催しました。

また、JETAA(JETプログラムの同窓会組織)による震災復興のための作品も展示しました。

廣木総領事・大使の挨拶に引き続き、瀬野実行委員会委員長及び小熊慎司参議院議員から福島の現状、復興に向けた意気込み、9.11を経験した米国人との連帯の必要性、当地在住者への復興への協力依頼等の挨拶がなされ、佐藤福島県知事からのメッセージも代読されました。

会場では、福島県産の日本酒数種類がふるまわれましたが、当地での日本酒の高い人気を反映して、特に、米国人出席者に好評でした。

地元新聞社より提供された震災に関する写真パネル23点を展示したところ、出席者の中にはこれらを凝視し涙ぐむ人が多く見られました。

会津塗等々の工芸品の展示コーナーでは、参加者は伝統技術の技に強く印象づけられて盛んに実行委員会メンバーに質問をしていました。

レセプション終了時には、瀬野実行委員会委員長から、多くの人が出席していた、勇気を得た、今後も復興に向けて協力いただきたいとの挨拶がなされました。



【瀬野委員長による挨拶】



【福島県産の各種日本酒】

4. ろうそくを使ったイベント(12月2日)

実行委員会主催で市内公園において、県人会等の邦人や米国人が参加し、福島県産の絵ろうそくに火を灯して、黙禱を捧げ、また、福島の応援歌も合唱しました。

また、当館からは日系人会や米国日本人医師会へ協力を依頼して、各々の団体が主催するイベントにおいて、ろうそくに火を灯して、黙禱を捧げました。